

平成22年度

奨励賞

## 平成22年度障害者雇用職場改善好事例

製造業

一人ひとりの特性に応じた配置、  
作業環境の導入

社会福祉法人共生シンフォニー がんばカンパニー(滋賀県大津市)

## 取り組みの紹介一覧

1. 勤務時間の弾力的な設定
2. お互いの障害特性を補完し、作業効率を向上させるための職場配置
3. 作業環境の整備

## 事業主の声

管理・営業支援担当 水野 武 さん

基本的な事務力があれば採用には問題を感じません。事業所として経営していくためには、従業員一人ひとりが利潤を生み出せることが必要であると考え、本人にあった職場配置や業務分担、作業効率向上のための工夫に日々努めています。

作業効率向上のための工夫に関しては、障害の部位や個人の状況によって工夫する内容が異なるため、実際に作業を行ってもらってから、補助する用具や支援の仕方を考えます。障害を持った本人が、自分のことをよく知っておられるので、本人からの改善要望を基にしています。改善のポイントは、いかに人的な支援を少なくし、作業能力を上げられるかという点であり、安価な手作りの道具と工夫でかなり改善されることが多いのです。



## 事業所の概要

昭和61年に「商いでノーマライゼーション」をキャッチフレーズに無認可小規模作業所として設立。多くが重度の脳性まひ者であったため、手先を使う製造等ではなく、お茶や珈琲等の仕入れ販売を事業内容とした。平成7年からは個人事業所として、障害者全員と雇用契約を締結した。平成9年からは菓子製造部門を新設し、知的障害者、精神障害者の雇用を進めた。平成20年には就労継続支援A型の認可を受けている。

## 主な事業内容

製菓業 無添加のオリジナルクッキーの製造・直売、企業等のOEMやPB商品製造。

## 上肢障害者雇用の経緯

採用経路は、ハローワークや障害者就業・生活支援センターといった支援機関からの紹介等により採用を進めている。本人の特性に応じて事務職、製造職等従事業務を選定し、作業効率を上げるための様々な補助具製作、配置転換等を柔軟に行っている。

## 上肢障害者雇用状況

■ 従業員数 61名  
上肢障害者雇用数…………… 5名

通勤  
時間

ポイント



作業内容

改善策

1

## 勤務時間の弾力的な設定



### 課題点

中野佐代子さん、倉田ゆかりさんはともに自動車通勤であり、事業所の付近は幹線道路のため、出退勤の時間帯は非常に混雑していた。そのため、必要以上に通勤時間がかかり、通勤だけでかなり体力が消耗し、上肢等の疲労が著しかった。また、時期によっては体調が不安定になりやすかった。



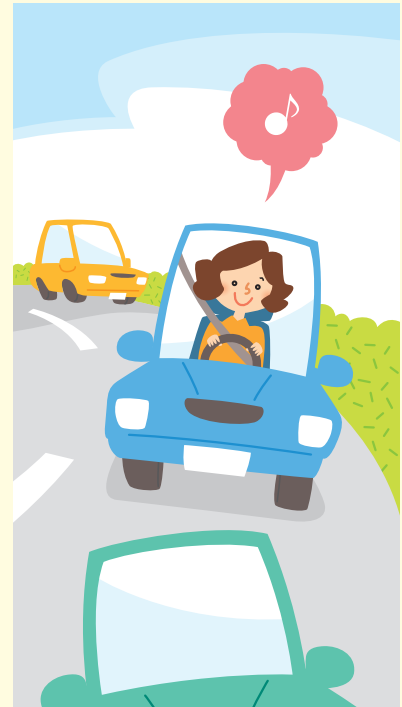
### 改善内容

混雑する時間帯を避けるため、始業時間を10時からとし、終業時間はそれぞれの体力と生活習慣に合わせ、倉田さんは16時まで、中野さんは18時までとした。併せて、**疲労や体調に応じて休みが取りやすくなるよう、時間給で労働条件を設定した。**



### 改善の効果

混雑する時間帯を避けて出社できるため、通勤に係る疲労がかなり軽減され、業務に打ち込みやすくなった。また、弾力的に勤務時間が変更できるようになったため、通院がしやすくなった。



### 従業員の声



作業中の中野さん



中野 佐代子さん



倉田 ゆかりさん



作業中の倉田さん

倉田さん、杉本さんと役割を分担したことで、以前のように車いす（電動で昇降するタイプ）を下げ、引出しから書類を取ったり、無理をして物を取ったりすることがなくなりました。そのため体力的にも楽になり、効率良く作業に取り組めるので、疲労が軽くなりました。

作業しているデスク周りに工夫がされたことで、上肢等の負担が軽くなり、随分と作業がしやすくなり、能率が向上しました。併せて、通勤時間の配慮もあるため、ラッシュを避けて通勤できるので疲労が軽くなりました。これからも長く働き続けることができます。

職場  
配置

ポイント

電話受付  
事務処理

作業内容

改善策

2

## お互いの障害特性を補完し、 作業効率を向上させるための職場配置



### 課題点

中野さんは、骨形成不全の後遺症により低身長で、上肢の可動域が狭い。さらに、車いすを利用していることから、事務机周りの高い位置のものも取ることができなかった。一方、倉田さんは、拘縮と脂肪腫が発生する疾病により、全身の関節の可動域が非常に狭いため、低い位置のものを取ることができなかった。



### 改善内容

製造職ではなく**事務職として配置**し、主に電話の取り次ぎと受付を担当業務とした。事務作業の内容については、遂行期限の比較的緩やかな伝票の入力内容チェックと月計、月締めの請求書発行、買掛金のチェック、毎日の郵便收受業務等を行うこととした。**カウンター付きデスクの高い位置で倉田さんが、低い位置で中野さんがそれぞれ業務に取り組んでいる。**



倉田さん

新たに採用した杉本さん  
当初は中野さんがここで  
倉田さんとペアを組んで  
作業していた

中野さん 杉本さんの採用後は、この位置で作業



左から倉田さん、中野さん、杉本さん



### 改善の効果

ユニットという考え方で配置したことで、それぞれの得手、不得手をそれぞれが補完し合うことができた。身体的な状況に応じた範囲の中で作業に従事できたことから、作業効率の向上や、上肢等の疲労の軽減が可能となった。なお、2人で補完し合うことになったことから、介助する職員を別途配置する必要がなくなり、人件費を抑えることに繋がっている。

現在では、2人のユニットに下肢障害のある杉本さんを採用・配置し、3名がそれぞれの障害を補う役割を担いながら勤務しているため、これまでよりも作業効率が向上している。

作業環境

ポイント

電話受付  
事務処理

作業内容

### 改善策 3

## 作業環境の整備



### 課題点

2人のユニットによる職場配置の効果を高めるために、カウンター付きの机での事務作業が効率的に遂行できるよう、工夫をする必要があった。



### 改善内容

倉田さんの上下肢の可動域の状況に合わせ、通常の事務机より高い受付用のカウンターに対応できるよう、高さが調整できるOAチェア(丸イス)を使用した。倉田さんにとっては、それでも机の高さが低かったため、机の上にガラス製のパソコンディスプレイ置き台を設置した。ガラス製のため台の下段に置いた書類や事務用品を見ることができたり、上肢の可動域内に事務用品を置くこともできるなど、作業スペースを有効に活用した。また、床に物を落としたときに自身で拾うためのマジックハンド等も用意した。

一方で、中野さんはこれまでの事務机よりも高くなったが、高さが調整できる電動車いすを使用していたため、上肢への影響はなかった。上肢の可動域に留意し、電話台は傾斜をつけ、パソコンはデスクトップ型ではなく、小型のノート型を設置した。また、両手でのキータッチができなかったため、スクリーンキーボードをマウスで操作することした。



電話の位置、傾斜等は手腕の状況に配慮したもの



### 改善の効果

それぞれの上肢の障害状況に応じた工夫がなされているため、身体的な疲労の軽減、能率の向上が図られた。3名がそれぞれを補う役割を担っているが、補助具を活用することで、各人の自立度はより高まり、生産性の向上が期待できる。



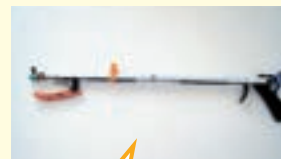
高さが調整できる市販のOAチェアを使用  
腰を乗せている程度で立位状態に近い



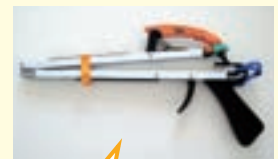
ガラス製のディスプレイ置き台の通常的使用方法



下段のメモを確認しながら上段で書類作成ができるため、作業効率も大幅に向上



マジックハンド



持ち運ぶために折りたたんだ状態



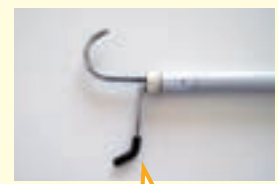
マジックハンドの両先端にゴムサックを付け、滑らないよう工夫



床に落としたペン等を取るときは、マジックハンドを使用



引出し等、モノを引っかけるときに使う治具



治具の先端部分の拡大



治具を使用して引出しを開けている様子